

週刊NY生活

www.nyseikatsu.com

iichiko
KUROBIN



IMPORTED & DISTRIBUTED BY: WINE OF JAPAN IMPORT, INC.
http://www.iichiko.jp tel.973-835-8585

NY生活プレス社 NO. 224 (週刊) 2008年9月20日土曜日

NEW YORK SEIKATSU PRESS, INC. ☎ (212) 213-6069
18 EAST 41st STREET, SUITE 403, NEW YORK, NY 10017

展覧会のオープニングに駆け付けた石岡瑛子さん(左)と横尾忠則氏(写真・本紙・三浦良一)



横尾忠則NY展

石岡瑛子氏もお祝いに駆け付け

画家になったのは
鬼が差したんです

美術家の横尾忠則氏が9月11日からニューヨークのチエルシー地区にあるフリードマン・ペンダ・ギャラリー(西26丁目515番地、電話212・239・8700)で10月18日まで個展を開催している。

初日のレセプションには、米アーティストのポール・デ・ピスや北京五輪から戻ったばかりの総合芸術デザイナー、石岡瑛子さんらが祝いに駆け付け、招待客600人余りが会場を埋めた。

展覧会では「暗夜路」などY字路作品や、滝の絵、書供養インスタレーションなど大作が、先の世田谷美術館などから直送されて展示された。

(関連記事16面に)

米教科書出版会社が、マクグロウ・ヒル、ワイリー、センゲージ、ジョー・オース・パブリッシング、グループの6社が提携して立ち上げた大学教科書「mart.com」では、単行

米出版6社が閲覧事業

大学教科書ネット配信

本紙の約額でオンライン版を閲覧できるとあって、学生に好評だ。米国の大学では、高額の教科書は10ドル程度で買える教科書もあるが、多くは40ドルから100ドルに達する。1学期分(45コース)の教科書を揃えると200ドル以上出費になることが多い。価格の安い教科書は学

◇本紙は、ニューヨーク発行のフリー紙で「日本経済新聞」と共にNY地区3州とオハイオ、ワシントンDCで配達され、NJ州とウエストチェスター郡では「朝日新聞」にも折り込まれています。日本では、紀伊國屋書店(大手町ビル)、渋谷、玉川高島屋、国分寺、大坂本町、福岡、札幌)と日本駐米東京事務所所配布、東大図書館でも閲覧できます。

生にとつて長年経済的悩みの種となってきた。9月15日付ニューヨーク・タイムズ紙によると、米国の大学では、このよう教授もその1人で、同教授の著作は、普通の教科書同様、単行本版も11ドルから60ドルで売られて

かけた大勢のニューヨークのファンが興味深そうに見入っていた。

また12日にはジャパン・ソサエティーで講演会が行なわれ、画家としての横尾忠則について自らを語った。60年代のグラフィック・アートの先駆者として活躍した横尾忠則が1980年にMOMAで見たピカソ展に衝撃を受け、突如として画家に転向してから28年、自らの過去を断ち切ってテーマとスタイルをガラッと変えたキリコやアンディー・ウォールに自らの変遷の姿をなぞらえた。一絵に転向したのは、魔が差したとしか言えない。いろいろ理由をつけてみたけど、どうもそうじゃないみたいなんです。よね。私の芸術は、「出会いがしら」で決まるんです。など、タダノリ・ヨコオの宇宙的ワールドのオーラを大輪の放射状に発散させていた。

Global Logistics Provider
NIPPON EXPRESS

いつでもどこでも
信頼できるサービス

1-888-592-2562

Continental Airlines
ニューヨーク⇄成田
BOEING 777 就航10周年記念

燃料費込み (\$506)
特別価格!

おっ!
近鉄に頼もう!

knt! 米国現地法人
コンチネンタル航空里帰り専用デスク

近鉄インターナショナル
1-866-431-3386

日本語で安心のサポート。総合インターネットプロバイダー!!

アメリカついたら、
カイデキインターネット

DSL \$19.95/月~

15メガDSL
も大好評!!

1-888-835-5931
www.cybercap.com



横尾忠則NY展に見るエネルギー

作品「絵葉書供養」の中に立つ横尾氏

作品「絵葉書供養」の中に立つ横尾氏。横尾氏は、世の中からいそうになってこれはいけないうと20日ばかり海外に脱出しようとして10日NY、10日ヨーロッパの予定で出発。10日の予定のNY滞りは4か月になって3か月目で心配して迎えに来た妻も1か月一緒に滞在した。

「ライフマガジンのジョン・ネイサンが『とてもいい時期に来たよ。今サイケデリックブームなんだ』と教えてくれた。サイコロジがデリシャスといった造語と教えられたサイケデリックは、

米国ではドラッグの幻覚と共に生まれたアートだったが、日本には根付かなかった。ヒッピーカルチャーなどとの誤解がまだに日本にムードとして残っている。ある日、アンディー・ウオーホルの『インタビュ誌』編集長のジョン・ウイルコックが、アンディー・ウオーホルがボクのアートに興味を持っているように感じるといってみる？というので、さっそくその夜、ファクトリーに行った。ウオーホルのカラーフルな原色の組み合わせがいったいどこから生まれるのかとても興味があった。行ってみると、ウオーホルは、ちいさなシルクスクリーンの作品を作っているところだった。サングラスをかけて色を選んでいた。出来上がって、サングラスを外して肉眼で見ると『ウォー』っていう感じになる。ボクはもうこれで十分、大発見だと思った。サングラスを外した時の変化した色と驚き、ボクもそれ

出会いがしらの 芸術に秘めた情念

「1980年にニューヨーク近代美術館でピカソの回顧展を見て、今日と、明日の作品のスタイルが違ふことに気がついた。商業アートはクライアントに忠実になっているが、自分に正直であることが大事だと絵に転向することにした」と、いろいろ理由をつけてみたけどどうもそうじゃないんですよ。気まぐれ、というか魔が差したとしか言いえない。Y字路も、昔、模型屋だった店を見にいったら取り壊しになっていて写真を撮ったところがたまたまY字路だった。特にY字路に興味持ってる訳じゃない。あんな前からも後ろからも車が来る危ないところでも写真撮るんだから。次は何描こうかなんて考えない。出会いがしらで決まるんです。考え過ぎると自由な表現ができなくなる。文学は観念的ですが、美術は肉体的、生理的なものです。Y字路もね、きつと『私はいつたい何者ですか』ってY字路が聞いているのかも知れない。『あなたが絵を描くことによってそれを解明してください』と『よし、わかった』って(三浦良一記者、写真も

をやりました。